

グラジオラス  
*Gladiolus* spp.  
 (アヤメ科)

球茎を形成する球根植物である。春から秋にかけての出荷される夏咲きグラジオラスと春の出荷が中心の春咲きグラジオラスがある。花色は豊富で、仕事花としての利用が多い。穂状に小花がつき、下の小花から順次開花するため、品質保持上は、どこまでの小花が開花するかと、開花した小花がどの程度の期間観賞価値を維持するかによって、切り花全体の日持ちが決まる。小花の開花を促すには、糖を与えることが有効である。長期の低温貯蔵は出荷後の小花の開花を抑制する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の開花	A: 苞葉から花被が出現する B: 基部の小花1～数花が開花する C: 中上位の小花が開花するとともに、基部の小花が萎れて老化する D: 老化していない小花が花序当たり2輪以下となる	小花の老化は以下の判断による A: 萎れなし, B: 花被の弁縁が萎れはじめる, C: 花被の弁縁が萎れて巻き込む, D: 花被全体が激しく萎れて萎縮する。
葉の黄変	A: 黄変なし B: 葉先2cm程度が黄変する C: 葉先の黄変が基部方向へ進行する, あるいは苞葉の葉縁が黄変する D: 黄変が基部まで進行して, 葉, 苞葉が全体的に黄色くなる	葉先の黄変と苞葉の黄変は通常同時進行する。
花穂の曲がり・折れ	花茎が A: 直立している B: やや曲がる, C: 大きく曲がる D: 花茎が著しく曲がる(45°以上)あるいは折れる	
その他	ウイルスによる萎縮, 不開花, 葉先枯れなど。	

2) 留意点

横にすると花穂の先端が立ち上がり、花穂が曲がる。  
 葉先の枯れ込みは出荷時に切り取られていることが多い。  
 小花数および開花小花数, 老化小花数を数える。  
 ウイルスの罹病により、花被、葉、苞葉にモザイク状の病斑が生じ、小花は開花しにくくなる。  
 完全に老化した小花は取り除く。

### 3) 開花



#### 4) チェック事項



弁縁の巻き込み

花被の萎れ



花被の萎れ



D: 花穂の曲がり・折れ



不開花



苞葉の黄変・褐変